

～日本脳炎ワクチンは生後6ヶ月から！～

従来、日本脳炎ワクチンは3歳から接種可能とされている方が多いと思います。しかし、実際には、生後6ヶ月から接種することができます。ワクチンの量は3歳以上が0.5ml、6ヶ月以上3歳未満が0.25mlです。3歳未満の接種量は少ないですが、抗体はしっかりと上がるという結果が確認できています。



2016年2月に日本小児科学会では、日本脳炎流行地域に渡航・滞在する小児、最近日本脳炎患者が発生した地域・豚の日本脳炎抗体保有率が高い地域に居住する小児に対しては、生後6ヶ月から日本脳炎ワクチンの接種を開始することを推奨しました。

◎日本脳炎ってどんな病気？

日本脳炎は、蚊に刺されて感染する病気です。日本脳炎に感染した豚を蚊が刺して、その蚊に人が刺されて感染します。



世界では毎年3万人～4万人の発症があるそうですが、日本では、ワクチンの普及や生活環境の改善などにより年間10人程度の発症です。しかし、日本には依然として、日本脳炎のウイルスがいます。豚の血液検査をすると日本脳炎に感染した豚がたくさんみつかります。つまり感染してしまう機会があるということです。日本脳炎に感染しても、多くの人は症状がほとんど出なかったり、風邪程度の症状で終わり、重い症状がでるのは100～1000人に1人といわれています。しかし一旦脳炎が発症すると死亡率は20-40%、回復しても半数以上の人に重い後遺症が残ります。

最近の小児の日本脳炎罹患状況をみると、熊本県で2006年3歳児、2009年に7歳児、高知県で2009年に1歳児、山口県で2010年に6歳児、沖縄県で2011年に1歳児、兵庫県で2015年に5歳児の報告があります。千葉県では2015年に、大変残念ながら生後11か月の乳児が日本脳炎にかかり重い後遺症が残ったと報告されました。



1人の患者さんが発症したということは、その周囲には1000人近い患者さん候補がいるということになります。以上より、日本脳炎は発症率は低いものの、より確実に重症の病気を予防するためにも生後6ヶ月からのワクチン接種をおすすめします。

グレイス病院 小児科 松居 糸り子

お願い

現在、全国的に日本脳炎ワクチンが不足している状況です。
受付にて、ワクチンのご予約をして入荷をお待ちください。(2017.8月)